

平成21年度大津市事務事業評価（二次評価）事業仕分け結果

班 別	第3班	時 間	9:50~10:42
事業番号	17	所管部課名	政策調整部 人権啓発課
事業名	地域福祉文化交流センター管理運営事業		
事業仕分け結果	(4)市実施 内容・規模見直し		
内 訳	(1) 不要	—	
	(2) 国及び県実施	—	
	(3) 市実施 現行通り	—	
	(4) 市実施 内容・規模見直し	4名	
	(5) 市実施 民間委託	—	
	(6) 民営化（NPO、地域団体含む）	1名	
<p>【事業仕分け判定に係る意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成9年を境に施設の役割が変わったので、機能を否定するものではないが、別の施設ですれば良い。 ・古い施設なので、今後、維持管理費もかかるので施設を民営化なり地域に譲渡すれば良い。その意味で民営化とした。 ・機能は残して、施設についてのみ民営化と考える。 ・相談業務は別の施設ですれば良いのではないか。 ・開かれた状況をつくるために公民館などのほかの地域の施設に来てもらうことが大事と考える。 			

事業仕分け発言要旨	
コーディネーター・評価者	事業説明者・補助者
	・事業概要説明（省略）
・市全体としては生涯学習センターや公民館があるが住み分けはどうなっているか。	・交流センターは人権問題に関わる役割を担っている。生涯学習センターは市民全体が対象。交流センターも市民全体が対象だが福祉ブロック単位をそれぞれ対象範囲としている。
（コーディネーター） ・5館のエリアの中に公民館はあるか。	・ある。
・人権問題のみを対象とするのか、範囲を広げて市民全体に利用できるようにするのか。	・枠を広げて地域福祉の役割を担っているが今後も引き続きその必要があるのか検討中。
・縦割りではなく、市全体としてどう考えているか。担当課としては人権問題に特化するつもりか。	・人権問題のみに特化とは考えていない。

<p>・交流センターと公民館の役割の違いは何か。これからの交流をどうしていくのか。</p>	<p>・交流センターは生活上の諸問題の相談業務が主である。以前は軽微な相談もあったが、現在は自立された。一方で、自ら関係機関に相談に行き、福祉事務所や民生委員につなぎながら相談している内容もある。交流センターでも5館の中には、公民館業務に近い館もあれば、重い相談業務のある館もある。地域間格差があり検討段階に入った。</p>
<p>・生活困難層はどれくらいいるのか。対象者の市民とは何か。</p>	<p>・対象者は福祉ブロック内の全市民。生活困窮者の把握は多い地域・少ない地域はどこか、検討委員会を始める前に調査を始めている状態である。</p>
<p>・利用者は福祉ブロック内の人だけなのか。</p>	<p>・館によっては公民館の分館の様な利用として、交流がどんどん進んでいる。</p>
<p>・同対法が終わって、行政側が役割を意味づけただけ。今現在の利用者は公民館と全く同じではないのか。</p>	<p>・平成9年までは同和地域及びその周辺地域という狭い範囲を対象としていたが、現在は福祉ブロックまで拡げている。</p>
<p>・範囲は分かったが、内容は平成9年以降どう変わったか。</p>	<p>・交流センターでは地域福祉を推進するためにも社会福祉協議会から職員派遣を受け事業をしている。というのは、平成9年の段階で、それまでの同和对策事業の中で自立に結びつかなかった層に対して、一般施策に工夫をこらす中で解決に結びつけていこうとしたもの。</p>
<p>・平成9年で位置付けが変わったのか。</p>	<p>・変わった。</p>
<p>(コーディネーター)</p> <p>・一旦整理するが、昭和35年からの事と、平成9年からの事を分けて考える必要がある。評価者側は交流センターでなくても公民館で出来ると考えている。</p>	<p>—</p>
<p>・事業費は何に使われているのか。</p>	<p>・修繕、光熱水費などの管理運営費が主である。</p>
<p>・社会福祉協議会の人件費は入っているのか。</p>	<p>・入っていない。</p>
<p>・人件費が事業費を上回っているが、事業していないのに、なぜこんなに人が要るのか。</p>	<p>・1館あたり約3人を配置。相談員は置いておらず、職員が対応している。</p>
<p>・貸館の稼働率はどれくらいか。皇子が丘市民会館の開館日数は。</p> <p>・利用日数は109日なので、開館日数の半分しか利用していないのではないのか。</p>	<p>・開館日数は220日程度である。</p>
<p>・公民館などと比べて利用率はどうか。</p>	<p>・差はある。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・3人配置はどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・館外業務や休みもあり、館の運営や来館者対応もあるので3人体制としている。
<ul style="list-style-type: none"> ・相談業務を別の所ですて、相談員をそちらに配置してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5館で地域差があり、転用も含めて検討に入っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・県補助金4千万円がなくなっている理由は何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大津市の事業の進め方とは違うことから、受給しないこととした。
<p>(コーディネーター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助を受けず、一般財源が必要なら、23年度まで結論を待たずに、早く結論を出すべき。 	—
<p>(コーディネーター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の延べ人数ではなく、純人数は。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5千人程度である。
<p>(コーディネーター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日平均7人程度の事業に税金を使うのはどうかと思う。 	—